

市長対話集会「笑顔のふれあいトーク」 開催結果概要



日時：令和4年11月4日（金）午前10時30分～11時30分
場所：桐生市中央公民館 404研修室

参加者

桐生健康を守る会 9名
桐生市長
報道機関 1名

1 開会

2 代表者あいさつ

3 市長あいさつ

4 議題

(1) 子育て環境に大事なこと — 学校給食等 —

(2) その他

5 閉会



(意見)
今の子育て環境がこれからの桐生市を創っていくと考えている。本日は学校給食を中心に、子育て環境に大事なことについて、意見交換を行いたい。

(市長)
本市が掲げる教育大綱の基本理念「桐生の未来を担い、世界に羽ばたく人づくり」を実現するために、安全安心な学校給食の提供は重要な役割を果たすものである。理念の実現に向け、本日の意見交換を施策に反映していきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

(意見)
当会は、食に関することを考えるために発足し、来年で創設45年を迎える。
安全安心な学校給食のために、食品添加物や地産地消、合成洗剤の使用等に対する考えを持っているが、近年、若い方々の団体もそうした考えを市に要望していると伺っており、心強く感じている。
食育については、家庭の食環境も重要であるが、学校での食生活も含めた食育教育も重要である。市長の学校給食に関する考えについて最初に伺いたい。

(市長)
自分が子供の頃は、食事の大切さが周りの環境から自然に学べる環境であったと思うが、高度経済成長期における大量生産、大量消費が進む中で学校給食も変わり、そうした中で「食育」という言葉が出てきたと思う。食は心と体を作るものであり、何においても大事なものだと考えている。
学校給食に関する要望が様々寄せられており、地産地消やオーガニック食材の使用など、それらについては、安定供給ができるかといった観点で徐々に取り組んでいければよいと考えている。

直近の市の取組としては、給食の食べ残しをリサイクルする取組として、食べ残しを液体肥料にし、その肥料で作物を作り、給食で使用する循環型の取組を開始した。この取組を子供に理解してもらうことが重要であるので、取り組んでいきたいと考えている。
食育を進める上では、①安全でおいしい食事ができること。②生きていた食材をいただくことで私たちが生かされていること。③食は人の心と体をつくること。④みんなで楽しく食べられること。この4つが重要であると考えている。

みなさんと共に取り組めることとして、例えば会の取組や経験談に関する講演や意見交換会、有機野菜を作っている生産者との橋渡しなどができると良いと思う。このほか、農業の六次産業を推進したいと考えているので、そうした市の取組に対しても、何かアイデアをもらえるとありがたいと考えている。



子育て環境に大事なこと

(意見)

子供の味覚は繊細であり、ある民間企業では10歳までに商品を食べてもらうことでリピーターにする戦略を持っているとのことである。

そのため、家庭や学校で桐生市の美味しい食材を幼少期から食べることで、市外に出た後も、桐生市に帰ってきたい、出ていきたくないといった気持ちにすることができるとは思わないかと思う。梅田地区にはキュウリやインゲンもある。そうした美味しい野菜等が普及できると良いと考える。

(意見)

小学校の低学年の時から給食で使用されている野菜のありがたみや調理の大変さなどを教育すると、子供の食に対する関心が高くなると思う。

また、残した給食は何でも大食缶に入れておくようにだが、その後、その残飯がどうなるのかを教育すると良いと考える。

(市長)

学校に管理栄養士や調理場の職員が赴き、子供と保護者に説明する事例もあると伺っているので、検討していきたい。

(意見)

孫に給食に関する意見を聞いたところ、ご飯が週3日、パンが週2日の割合であるが、ご飯の割合を多くしてほしい。また、給食のおかずが豆が入っていることが多いことが不満とのことであった。

(意見)

給食の食べ残しをリサイクルする取組の新聞記事で、給食の残飯ではご飯が多いとあったが、いかがであるか。

(事務局)

残飯を肥料化する取組の際に、残飯を脱水するため、ご飯が多く目立つのだと考えられる。特別ご飯の食べ残しが多いということでない。

(意見)

食べ物の好き嫌いでの食べ残しも多いのだと思う。

給食の時間は、大人になった後も懐かしい話として、当時の献立などについて話すこともあるので、子供にとって貴重な時間であると考えている。

(市長)

海外では給食をあえて粗末にして、家庭の献立で好き嫌いをしないようする面白い取組がある。



(意見)
稲刈り体験や野菜の収穫などの体験をすることも重要であると思う。
家庭での取組も必要であるが、団体教育で親ではない先生の話から学ぶ方が身になることもあるので、運動することが大事である。

(市長)
体験することは、大変重要である。

(意見)
昔は当番で保護者が給食の補助員をやっていたこともあり、子供にとって給食がとても身近なものだった。新中央共同調理場を見学して感じたのは、衛生管理が徹底され、すごいと思った反面、食育を学ぶ環境とすると難しくなったのかなと感じた。

(意見)
一年に一回お弁当を作って行く日という事例がある。自分で自分のお弁当を作ってみることも、食育につながるのではないかと考える。

(市長)
全国の事例において、給食を出さない日が年に4日間あるので、自分たちで給食の代わりを作ってくるという取組がある。おかずは少なくとも何種類以上、嫌いな食べ物を工夫して調理するなど決まり事もあり、面白い取組だと思う。

(意見)
海のものや山のを1品ずつ入れるといったことも面白いかもしれない。

(市長)
食に関する一つの考え方として印象に残っている医者の方の話がある。
その先生が病気や怪我の療養を子供にする際に出す献立は、ご飯、味噌汁、沢庵とのことで、何より沢庵が重要とのことであった。沢庵は土の中で水を得て、干す際には風と太陽の光に当たることから、総合的な自然の恵みを得ていると話だった。栄養として良いかは分からないが、そうした信条に感心した。

(意見)
その先生から、汗と涙と沢庵という話を伺ったことがある。汗は運動をたくさんしなさい。涙は感情豊かにしなさい。食べ物は沢庵が大事という話で、印象深い話であった。

(意見)
禅僧の食事も同様であると思うが、質素な食事とお寺での生活で、心身共によくなる話もある。



(意見)

地域で支え合う子育て環境づくりとして、地域のお年寄りとの取組が良いと思う。
家庭環境によっては、放課後家に誰もいない世帯もあると思うので、その預け先として、また、お年寄りの認知症予防には、本を読むことや数字を数えることが重要とのことであるので、双方にとって良いと思う。前橋市では放課後、子供とお年寄りが本の読み聞かせやドリルを一緒にする取組を以前から続けており、効果を上げているとのことである。

(意見)

全国的に放課後子ども教室が推進されており、桐生市でも地域の方に先生になってもらう取組を進めている。他にも朝の読み聞かせに取り組む地域もある。

(意見)

例えば一緒におやつを作ってみるとか、コミュニケーションの中で小さなことに取り組むことも食育につながると思う。

(市長)

そのとおりだと思う。
学校給食に有機野菜や地元野菜を使用することも大事だと思うが、小さな取組として、例えば学校で有機野菜を育てて、食べてみて、何が違うのかを感じることに、体験することが食育になると思う。食べ物ができる仕組みやありがたさを身近なところで感じられる取組が重要である。

(意見)

孫が桐生を好きな子どもの割合を統計グラフにしたところ、ほとんどの子供が桐生を好きであるとの結果であった。その気持ちが続けられる取組をお願いしたい。
そうした中では、令和5年度から予定される高校生までの医療費無償化については大変ありがたい。

(市長)

世界を見ると、フィンランドでは高水準な福祉施策を実施していたが、出生率が低下している。10年、20年先を見据えると、福祉的な施策で人口が増加できるかは不透明であり、人口減少が見込まれる本市においては、人口減少を前提としたまちづくりを進める必要がある。そうした中で、本市の魅力や特色を活かしたまちづくりを進めることで、選んでもらえるよう取り組んでまいりたい。

(閉会)

当会で初めて荒木市長を招き、講和をしてもらった際、市長は桐生市が好きだという話をしてされた。その想いが大切だと私たちも考えている。桐生市が好きだという想いを周囲に伝えながら、桐生市と一緒に取り組めるよう、今後がんばっていきたいと考えている。
本日はありがとうございました。

